

事例番号:280114

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第三部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

妊娠 28 週 0 日 妊娠糖尿病の診断

妊娠 28 週 3 日 血糖日内変動検査のため入院

3) 分娩のための入院時の状況

管理入院中

4) 分娩経過

妊娠 28 週 5 日

20:40 胎児心拍数聴取で 80 拍/分の徐脈が 1 分以上続く

21:00 基線細変動減少、遅発一過性徐脈あり、徐脈の原因不明

妊娠 28 週 6 日

8:40 超音波断層法、卵円孔閉鎖の診断、心不全への移行が考えられ、
変動一過性徐脈が散見するため帝王切開の方針

10:15 帝王切開により児娩出

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:28 週 6 日

(2) 出生時体重:1500g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析値:pH 7.30、BE 0.4mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 6 点、生後 5 分 8 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バック・マスク)、気管挿管

(6) 診断等:

出生当日 低出生体重児、新生児仮死、新生児特発性呼吸窮迫症候群

(7) 頭部画像所見:

生後 78 日 頭部 MRI で、左側脳室三角部の脈絡叢に古い出血のあとを示唆する所見があるが、胎児新生児期の出血による脳の異常を示唆する所見はない

生後 9 ヶ月 頭部 MRI で、明確な異常はなし

6) 診療体制等に関する情報

(1) 診療区分: 病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師: 産科医 2 名

看護スタッフ: 助産師 1 名

2. 脳性麻痺発症の原因

妊娠経過、分娩経過、新生児経過に異常は認められず、脳性麻痺発症の原因は不明である。

3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

(1) 妊娠中の管理は一般的である。

(2) 妊娠 28 週に妊娠糖尿病の診断で、検査指導のために入院としたことは一般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠 28 週 5 日の定時観察で胎児心拍数が徐脈であり、その後フモニターで厳重監視、また超音波断層法で胎児の健常性の評価を行ったことは一般的である。

(2) 胎児の心臓の異常により胎児心不全への移行が予測され、また、変動一過性徐脈が散見されることにより、妊娠 28 週 6 日に帝王切開で分娩としたことは選択肢のひとつである。

(3) 手術決定から見娩出までの対応は一般的である。

(4) 臍帯動脈血ガス分析を行ったことは一般的である。

(5) 胎盤病理組織学検査を行ったことは適確である。

3) 新生児経過

新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、気管内挿管)および NICU へ入院としたことは、いずれも一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

原因不明の脳性麻痺発症機序の解明に関して、症例の蓄積や原因の究明を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。